件名：

【中部防災推進ネットワーク】メールマガジン Vol.43

本文：

2024年4月26日

■+■-----
+■┘ 中部防災推進ネットワーク
メールマガジン Vol.43
■┘-----

各 位

中部防災推進ネットワークの参画メンバーの皆さまに、
メールマガジン（2024年4月号）を配信します。

※メールマガジンのバックナンバー、これまでの会合の
発表資料等は中部防災推進ネットワークホームページに
掲載しています。

<中部防災推進ネットワークホームページ URL>

<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/chububosai-nw.html>

1. 会長 2024年度初めのご挨拶

中部防災推進ネットの構成員の皆さま、日ごろから当地
の防災減災への多大な貢献、誠にありがとうございます。

新たな年度を迎え、異動された方も多いため、
改めて研究会の発足の経緯を説明いたします。

この研究会は、2019年に名古屋で開催された防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）において、国・県・市の連携、官民の連携の大切さが議論されたのを受け、地域における産官学民の連携を促進するために設立されました。内閣府を始めとする国の機関、県、市、業界団体が、互いに個々の組織の特徴を学びつつ、平時から顔が見える

関係を築くことで、災害被害を軽減することを目指しています。

ちょうど設立する時期に新型コロナが蔓延したこともあり、オンラインを中心にした活動を4年間続け、現在に至っています。

昨年には、国が南海トラフ地震の被害想定の見直しに着手し、今春までに報告がまとまる予定でした。その要点は、甚大な被害に対し災害対応力の圧倒的な不足、耐震化の推進など住民や産業界の事前対策の一層の推進、少子高齢化に伴う災害関連死の増大、ライフラインやインフラの相互依存に伴う災害の波及、デジタルへの過度な依存、産官学民の連携の大切さなどでした。まさに報告書がまとまる直前に、能登半島地震が発生しました。この地震では半島先端部故の課題が多々浮かび上がりました。高齢化率が50%を超え、人口減少により家屋の建て替えが進まず、耐震化率は50%前後しかありませんでした。それ故、甚大な家屋被害となりました。元日の地震であり、半島先端への道路が寸断したため、救援もままならず多くの集落が孤立しました。

奥能登の状況は、まさに未来の日本社会の縮図とも言えます。

奥能登の2市4町の人口は13万人弱、面積は約1700平方キロ、製造品出荷額は1900億円弱です。この面積とほぼ等しいのが当地の西三河です。産業が集積するこの地域の人口は能登の12倍、製造品出荷額は130倍にもなります。前回の南海トラフ地震の1か月後には深溝断層が活動した三河地震が発生していますから、能登半島地震と同様の地震が次の南海トラフ地震の前後に発生する可能性もあります。南海トラフ地震の地震規模は、能登半島地震の100倍にもなります。被災者人口は約500倍です。

このため、能登と違い、他地域からの支援は望めません。あらゆる組織が事前防災に注力して被害を減らす努力をすると共に、日ごろから産官学民が連携することで、災害発生後に地域の力を結集して早期に復旧・復興ができるよう、準備をしておくことが肝要です。これは、まさ

に中部防災推進ネットが目指してきたことです。

本年度も、従前以上に活発に活動をしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(中部防災推進ネットワーク 会長 福和伸夫)

2. 本ネットワークの参画団体のご寄稿

今回の寄稿はございません。
次回までお待ちください。

3. 本ネットワークの参画団体からのお知らせ (防災イベントの予定等)

(1) 一般社団法人 日本損害保険協会

○イベント名

親子で学ぶ 防災・減災ピクニック 2024

○開催日時

令和6年6月1日(土) 9:00～12:30【受付
8:45～】

※参加費無料

※要事前申込(申込方法はURLご参照、締切5/15)

※定員(20組40名)を超えた場合は抽選

○開催場所

名古屋大学東山キャンパス

※受付は名古屋大学博物館

○概要

福和先生にナビゲーターをお願いし、今後30年以内に発生すると言われている南海トラフ巨大地震などの自然災害について、親子で体験・体感しながら防災・減災を学ぶことにより、家族の防災力を高めることで、将来に備えるためのプログラムです。ぜひご参加ください。

○Web ページ URL

「親子で学ぶ 防災・減災ピクニック 2024」を開催します!
(sonpo.or.jp)

ますので、何卒お力添えをお願い致します。

「天災は忘れた頃にやってくる」という警句がありますが、誰もが忘れたまま安心して過ごせる未来が訪れることを祈願しています。

みなさまにおかれましても、くれぐれもお体には
ご留意ください。

これもちまして、結びの挨拶とさせていただきます。

(国土交通省

)